



「銀座線ビジネスエリア駅デザインコンペ」編

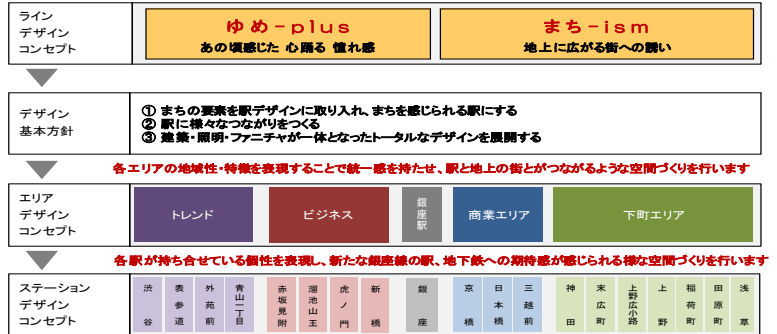
東京メトロでは、2017年に銀座線開業90周年を迎えることを見据えた銀座線全駅のリニューアルを進めるため、2012年12月から様々なアイデアを公募する駅デザインコンペを実施しています。今回は、第4弾「銀座線ビジネスエリア駅デザインコンペ」について、その実施状況をご紹介します。

「銀座線駅デザインコンペ」の展開

銀座線では、1927年(昭和2年)12月30日東洋初の地下鉄として開業後、東京の街をつないできた歴史を大切にしながら、先端の機能やサービスを取り入れ発信する路線を目指し、【伝統×先端の融合】を路線コンセプトとし、全線のリニューアルを実施しています。

銀座線リニューアルの取組みは、主に『ホームドアの整備』、『新型車両の導入』、『渋谷駅移設工事』、そして『エリアごとの駅リニューアル』があります。このうち、駅のリニューアルにあたっては、ただ単に駅を改装するのではなく、これからも地域の皆さまをはじめ、多くの方から愛される路線となるよう、お客様にも一緒に駅づくりに参加していただきたいという思いで、エリアごとにデザインを広く公募する『銀座線駅デザインコンペ』を2012年12月から開催しており、これまでに「下町エリア」、「商業エリア」、「銀座駅」の3エリアのコンペを実施しました。

【参考】銀座線駅デザインコンセプト



【参考】過去の最優秀賞作品



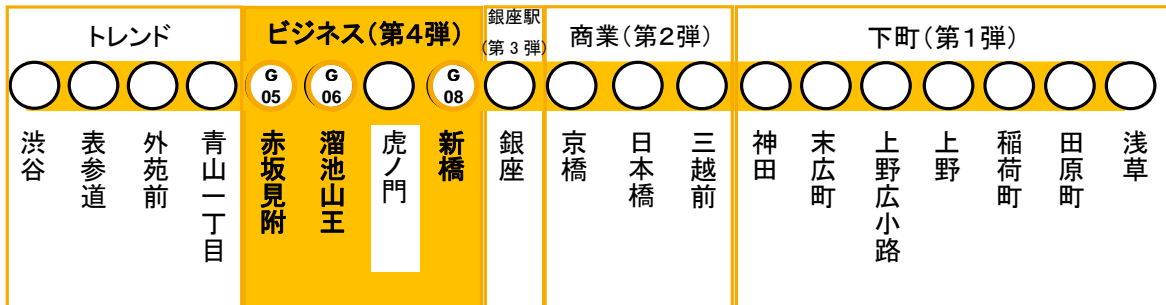
【第1弾】下町エリア最優秀作品

【第2弾】商業エリア最優秀作品

【第3弾】銀座駅最優秀作品

第4弾！「ビジネスパーソンの1日、地下鉄の1日」をテーマとしたビジネスエリアコンペ ～【駅デザイン部門】と【「幻のホーム」活用アイデア部門】の2部門を募集～

第4弾では、ビジネスエリアに含まれる新橋駅・溜池山王駅・赤坂見附駅の3駅を対象に、駅デザインを募集する「東京メトロ 銀座線 ビジネスエリア 駅デザインコンペ」を開催しています。2015年10月28日(水)から募集を開始し、2016年1月6日(水)に作品の提出を締め切りました。2部門の作品応募総数は、過去最高となる234作品にのぼり、設計事務所等に勤務するプロの方はもちろん、一般の会社員や学生の方など、最年少は8歳、最年長は80歳と幅広い世代の方から応募をいただきました。



※虎ノ門はビジネスエリアに含まれますが、今回のデザインコンペ対象外としています。

今回のコンペでは、これまでのコンペと同様、各駅のデザインを募集する【駅デザイン部門】と新しい試みである【「幻のホーム」活用アイデア部門】の2部門において作品を募集しました。

【駅デザイン部門】については、単なる移動行動として考えられてきた「東京メトロを利用すること」を、「乗る前」と「降りた後」という前後の活動と合わせて一連の「経験」として捉え直し、メトロに乗ることそのものが魅力的な「経験」となることをテーマにし、お客様からの多様なアイデアを広く求めました。

【「幻のホーム」活用アイデア部門】については、ビジネスエリアに含まれる新橋駅に、1939年にわずか8か月間だけ使用されていた「幻のホーム」と呼ばれる場所が存在することから、本コンペの開催に合わせて、この場所を活用した独創的なアイデアを募集するために新設した部門です。幻のホームをきっかけに東京メトロの歴史に触れていただくとともに、提案いただいた活用アイデアによって生まれ変わった新たな舞台を通して、東京メトロをご利用されるお客様の魅力的な物語がつけられることを期待しています。

ビジネスエリア駅デザインコンペ 実施スケジュール

2015年10月28日(水)	申込受付開始
11月28日(土)	幻のホーム見学会
12月22日(火)	事前登録締切
2016年1月6日(水)	作品提出締切
1月20日(水)	社内審査
1月25日(月)	一次審査
3月10日(木)	二次審査
4月11日(月)	結果発表・授賞式

「幻のホーム」見学会を開催し、約80名の方に参加いただきました！

2015年11月28日(土)、幻のホーム活用アイデア部門への応募予定者を対象に、新橋駅「幻のホーム」見学会を実施しました。見学会は約80名の方に参加いただき、参加者は担当者からの説明に熱心に耳を傾け、ホームの隅々まで写真を撮り、寸法を測るなどアイデアの材料を集めていました。「実際のイメージが湧き、良いアイデアが生まれそう」、「新橋駅の歴史を感じた」等の声をいただき、この経験を実際の作品にも活かしていただけたようです。



【参考】新橋駅「幻のホーム」の歴史

銀座線は、東京メトロの前身である帝都高速度交通営団のさらに前、「東京地下鉄道」と「東京高速鉄道」の2つの事業者により建設、運営されていました。1927年(昭和2年)、早川徳次(はやかわのりつぐ)が率いる「東京地下鉄道」が東洋初の地下鉄として浅草～上野間を開業しました。その後、1934年(昭和9年)に上野から新橋まで延伸したときにつくられたのが、現在の新橋駅です。一方、1939年(昭和14年)1月、「東京高速鉄道」が新橋～渋谷間を開業しましたが、両者間で直通運転に向けた協議が調わず、将来の計画に備えて折返し用に作られた新橋駅を仮駅として営業開始しました。これにより事業者が異なる2つの新橋駅が並列して存在していました。その後、両者間で直通運転に向けた協議を重ね、同年9月に「東京地下鉄道」側の新橋駅に「東京高速鉄道」が接続しました。これにより、「東京高速鉄道」の新橋駅は閉鎖され「幻のホーム」となりました。現在は、駅関係諸室や夜間の留置線として使用されていますが、壁面のタイルで描かれた右横書きの駅名やアーチ型の柱などが当時のまま残されています。



審査委員17名による厳正なる一次審査

一次審査は、2016年1月25日(月)、メトロの役員・部長15名と社外審査員2名の計17名によって行われました。審査員は机に並べられた全作品について、ひとつずつ確認を行い、議論を重ねたのち、一次審査通過作品17作品(駅デザイン部門9作品(特別賞候補3作品含む)、「幻のホーム」活用アイデア部門8作品)を選定しました。



【審査委員長・社外審査員】

- 山村 明義
(東京地下鉄株式会社専務取締役・鉄道本部長)
- 紺野 登
(多摩大学大学院教授兼
知識イノベーション研究所 代表)
- 松下 美紀
(松下美紀照明設計事務所 代表)

公開プレゼンテーションを開催します！

一次審査を通過した作品のうち、駅デザイン部門の6作品(特別賞候補作品を除く)の応募者による公開プレゼンテーションを3月10日(木)に実施します。また、幻のホーム活用アイデア部門についても一次審査通過の8作品を公開、展示します。

合わせて、当コンペの審査委員長である山村明義、社外審査員の紺野登氏及び松下美紀氏による講演会を開催します。

どなたでもご覧いただけますので、お誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。

詳細につきましては、銀座線ビジネスエリア駅デザインコンペ特設サイト(<http://tokyometro-competition.jp/index.html>)をご参照ください。

なお、プレゼンテーション終了後、その内容を討議する二次審査を同日に開催し、最終結果は4月11日(月)に予定している表彰式にて発表します。「ビジネスパーソンの1日、地下鉄の1日」をテーマにした斬新でユニークな作品にご期待ください！

【公開プレゼンテーション及び講演会概要】

- 日時
3月10日(木) 13:00~16:45 ※12:30開場
- 内容
13:00~14:30 コンペ審査委員による講演会
「銀座線リニューアルと駅デザインについて(仮題)」
 - ・講演1・・・山村明義
 - ・講演2・・・紺野登
 - ・講演3・・・松下美紀14:30~16:45 公開プレゼンテーション(駅デザイン部門6作品)
16:45 終了 ※以降の審査については非公開とさせていただきます。
- 場所
スペースFS汐留 東京都港区東新橋1-1-16 汐留FSビル3F
※外部の階段より3Fにお越しください。
- 募集締め切り
定員 120名(予定) ※定員に達し次第、締め切ります。
- 申込み方法
以下の事項を明記の上、
info@tokyometro-competition.jp ホームページをご送付ください。
件名: 公開プレゼンテーション観覧希望
本文: 1. 氏名・フリガナ
2. 所属先(学校/会社名等)
3. 登録番号 ※当コンペ登録者のみ明記

東京を走らせる力

